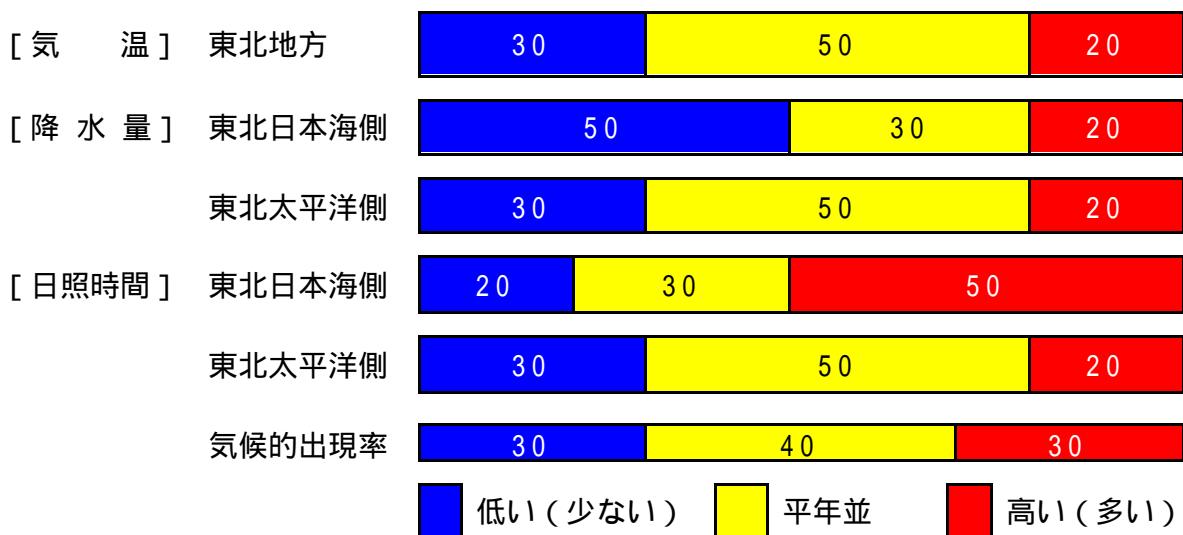


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：7 月 1 日～7 月 30 日）

平成 12 年 6 月 30 日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい確率は「低い」で、その確率は 30%です。「高い」の可能性は 20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

梅雨前線の活動が不活発なため、東北地方への梅雨前線の影響は弱いでしょう。また、太平洋側を中心にオホーツク海高気圧の影響を受ける時期がある見込みです。このため、東北日本海側では平年より晴れる日が多いですが、東北太平洋側では、平年と同様に曇りの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約 15 日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 明日(1日)は低気圧の影響で雨の降る所がありますが、その後は(7月1日~7月7日) 前線の活動が弱まるため、曇りまたは晴れの天気となる見込みです。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約3日です。

2週目…………… 前線の活動は不活発で、東北日本海側では晴れの日が多いですが、
(7月8日～7月14日) 東北太平洋側では、オホーツク海高気圧の影響をうけるため曇りの日
が多く、低温となるでしょう。

平均気温は低い見込みです。

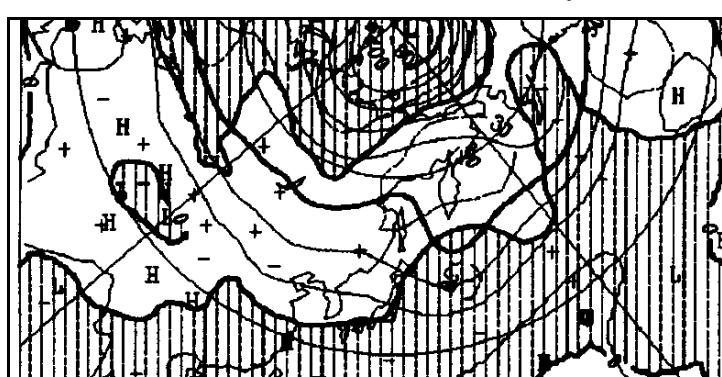
平年の晴れ日数は東北地方で約3日です。

3～4週目…………… 引き続き、前線の活動は不活発で、東北日本海側では晴れる日が多
(7月15日～7月28日) いですが、一時オホーツク海高気圧の影響を受け、東北太平洋側では
曇りの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約7日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の500hPa高度・偏差
(等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

・500hPa高度・偏差

月平均でみると、日本付近の偏差はほぼ平年並。日本付近の流れは2週目以降、弱い東風となって前線の活動は不活発となる見込み。

オホーツク海にはオホーツク海高気圧に対応する気圧の尾根が予想されている。

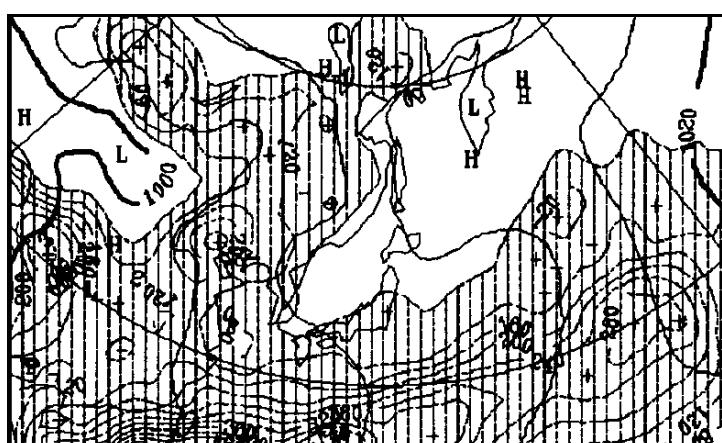
週別(図略)に見ると、太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、オホーツク海付近の気圧の尾根は、2週目以降強まる見込み。

・地上気圧と降水量

月平均でみると、太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、カムチャツカ半島の南にはオホーツク海高気圧があって北日本に張り出す。梅雨前線の位置は不明瞭。だが、本州付近は相対的に低圧部。

日本の南には強い降水域があるが、これは熱帯擾乱によるものと考えられる。東北地方には強い降水域はからない。

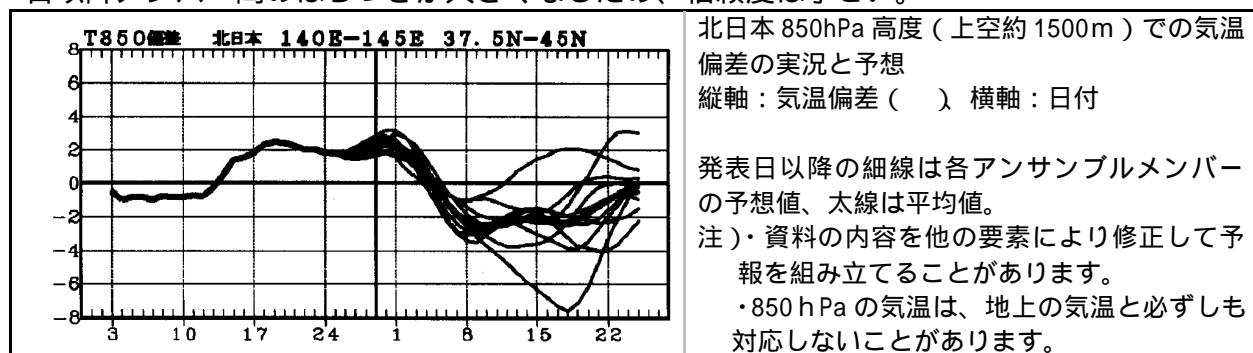
週別(図略)では、2週目以降オホーツク海高気圧が北日本に張り出す。週別でも、強い降水域が東北地方にかかることはない。2週目以降、オホーツク海高気圧が出現し、太平洋側を中心に影響を受ける時期がある見込み。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

3. 北日本 850 hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目後半から下降し平年を下回る状態で推移する。3週目後半から4週目にかけて平年並に戻る。ただ、2週目以降メンバー間のばらつきが大きくなるため、信頼度は小さい。



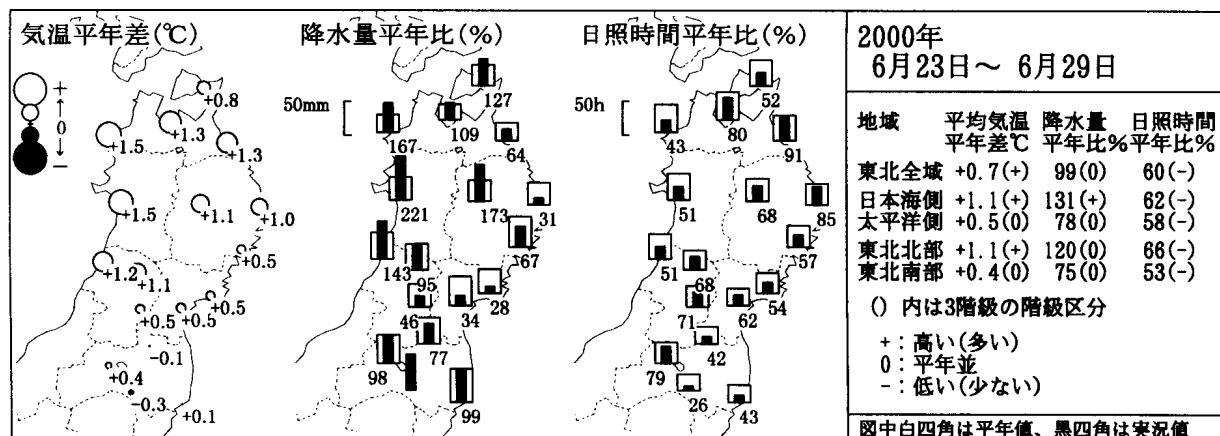
注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（6月23日～6月29日）の天候の経過

この期間、日本の南岸に停滞した梅雨前線と、日本海を進む低気圧の影響で、曇りや雨の日が多くなった。5月中旬から少雨の状態が続いていた東北北部では、27～28日にまとまった降水があり、少雨の状態は解消に向かった。29日には移動性高気圧に覆われおおむね晴れた。

仙台管区気象台は、東北北部は6月24日頃に梅雨入りしたと見られると発表した。

平均気温は、東北日本海側で平年差+1.1と平年より高く、東北太平洋側で平年差+0.5と平年並だった。降水量は、東北日本海側で平年比131%と平年より多く、東北太平洋側で平年比78%と平年並だった。日照時間は、東北地方で平年比60%と平年より少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

5. 梅雨入りについて

	今年の梅雨入り	平年の梅雨入り	昨年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	6月11日頃	6月12日頃	6月16日頃	7月23日頃	7月24日頃
東北北部	6月24日頃	6月14日頃	6月16日頃	7月26日頃	7月26日頃